

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	白石町立北明小学校
1 前年度 評価結果の概要	・保護者アンケートでは、本校の教育活動について全項目で「概ね達成」以上の評価であった。 ・学力向上については「家勉週間」が定着し、大きな成果をあげることができた。 ・「あいさつ」については、「あいさつボランティア」など、様々な工夫をして成果は上がってきている。さらに地域での元気なあいさつが定着するよう工夫をしていく。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進については、時間と場を設定し改善に向けた話し合いを行ってきたが、時間外勤務については目標を達成できなかった。さらに、行事精選と教職員の意識の向上を図っていく。

2 学校教育目標	地域のよさをいかし、夢をもち、未来を担う学校づくり ◇ かしこく（知）：確かな学力・知恵を磨く ◇ やさしく（徳）：やさしく人と関わる力を培う ◇ たくましく（体）：健康で元気な態度を育む
----------	---

3 本年度の重点目標	○基礎・基本の学力の向上○学ぶ意欲と思考力・判断力・表現力の育成○望ましい学習習慣と学習態度の育成 ○人と協調し、人を思いやる心の育成○自らを律する心の育成○人と関わる力の育成 ○望ましい健康生活の習慣化、学校体育の推進○食育の推進と性教育の実施○特別支援教育の推進○教育相談の充実
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90％以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・夏季休業中にマイプランについての共通理解と、個々の取組の具体策と進捗状況について共有する場を設けた。 ・マイプランの成果指標達成状況は78％であった。 ・夏季休業中に講師招聘による学習評価についての研修を行い、2学期以降の実践に行かせるようにした。	A	・全職員がマイプランの個々の目標を意識して授業づくりに取り組むことができた。成果指標の達成状況も90％以上であった。	A	・子ども達の見取り、適切な評価を行うとともに、次の意欲につながる称賛を意識的に行えば良いのではない。 ・プランを共有したことにより、教職員の刺激となって成果指標の達成につながっているように思う。
	○様々な場での交流活動の充実	○「自分の考えを友達に伝えることができる」と答える児童の割合を80％以上にする。	・話し方や聞き方の具体的な型を示す。 ・各教科で、自分の考えを書いたり、友達と話し合ったりする場を意図的に設定する。	A	・7月に実施したアンケート調査で「相手に伝えることができた」と、肯定的に回答した児童が84％。 ・話し方については、教師が手本を示すなど、具体的に話しながら型を示した。 ・交流の仕方についても、目的別に型を示しながら、意識的に交流の場を設定していきたい。	A	・12月に実施したアンケート調査で「相手に伝えることができた」と、肯定的に回答した児童が89％で、年度当初からすると進んで考えを発言できる児童が増えた。 ・交流の仕方も徐々に身に付き、相違点を聞き分けながら話し合いができるようになってきた。	A	・交流の場ではっきりと物事を言える児童が増えてきたように感じる。 ・「相手に伝えることができた」ということは、相手の話をよく聞くことができたから自分の考えを言えたのだと思う。常に相手の目を見てよく聴くことが大切である。引き続き指導をお願いしたい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80％以上	・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートの実施 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・「たすきコーナー」(児童の認め合い)や、道徳コーナーを効果的に活用し、児童の自己肯定感を高める。	A	・7月に実施したアンケートでは、肯定的な回答をした児童は80％をこえていたが、生活をより良くする、外国の文化の理解の面では落ち込みが見られた。 ・道徳科のグループ研や3回の全体授業研を実施できた。 さらに指導法など細かな点で共通理解を図ってきたい。 ・行事ごとに「たすきコーナー」で児童同士のがんばりを掲示することができた。今後は放送による紹介をし、児童の自己肯定感を高めていけるようにしたい。	A	・12月に道徳に関するアンケートでは、すべての項目において肯定的な回答をした児童生徒が80％を超え、改善が見られた。 ・道徳科の授業づくりに関する研修会を年間7回実施し、教員間の共通理解を図ることができた。 ・行事や集会後のふり返りカード「たすきカード」を掲示するだけでなく、放送で紹介することで、児童の自己肯定感を高めることができた。	A	・児童に関わる人が発信源となって笑顔や和やかな眼差し、温かい言葉をかけるだけでも自己肯定感を高め、自分の強みとなると思う。 ・人権とは子ども達にとっては「みんなと仲良くなること」。日常の思いやりの心を育てていきたい。大人も言葉の重みを考えて児童に接していくことが大切だと思う。 ・心の教育と学力向上は両輪である。学力向上が図られていることは、心の安定ができていからだと思う。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90％以上	・定期的なアンケートや、心のチェックシートによる児童の実態把握に努める。 ・いじめの対応についての研修・会議を長期休業中および随時行う。	B	・心のアンケートを毎月全児童に実施した。また、心の相談ポストを常設し、児童の実態把握と対応を行った。今後、事例をもとに、未然防止のための研修などを行ってきたい。	A	・全児童への毎月の心のアンケートや4・5・6年生へのパルソン小児抑うつ傾向調査の実施と心の相談ポストの常設で児童の実態把握と対応をおこなった。2学期初めには教育相談週間で担任と児童全員が面談を行い問題の早期発見につとめた。組織的対応ができたと肯定的に答えた教師は100％であった。	A	・学校が休校となり、一層、「学校にいきいたい」「友だちに会いたい」という気持ちを高めたようである。学校が楽しい場となっている。 ・未然防止のための組織的対応ができていていじめの早期発見と対応への取組が充実している。
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)80％以上	・児童の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施 ・各種体験活動では、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・キャリアパスポートの活用により、将来の夢や目標を意識させる。	A	・校内授業相互参観週間を設定し、お互いの授業を見せ合うことで指導力向上へのきっかけを作ることができた。2学期以降も内容をふかめて継続する。 ・各学年、体験活動の際には「めあてを持たせる。ふり振り返り行う。」ことを意識して実践できた。 ・中高学年でキャリアパスポートに取り組んだ。6年生では将来の夢を持っていると答えた児童が93％であった。2学期以降も行事や学習活動の中で活用していく。	A	・年間2回の授業相互参観週間を設けた。参観をきっかけとして、指導方法や児童に関する職員間の交流がさらに活発になり、その後の実践に生かすことができていた。 ・「めあて、振り返り」を徹底して体験活動を実施したことにより、児童は目的意識をもって意欲的に活動に取り組むようになった。 ・90％以上の職員が計画的にキャリアパスポートを活用できている。6年生も自分の夢をしっかりと持ち意欲的に活動している。	A	・自分をかえるチャンスとしてキャリアパスポートを活用し、自身の変容や成長を自己評価できていると思う。 ・色々な体験学習にコミュニティ・スクールとして関わり、子ども達がやる気満々で元気に自ら進んで活動できている姿が見られ感動している。 ・地域とのつながり、体験学習の充実を図る意味でも、「地域集いの日」など設けてはどうか。
●健康・体づくり	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	③「健康に食事は大切である」と考える児童生徒95％以上	・栄養職員と連携し、各学年食育の授業を1時間以上実施する。 ・給食委員会の放送と児童集会における啓発活動を行う。 ・食に対する意識調査を実施し、保護者へ啓発する。	B	・現時点で、1・3年で食に関する授業を実施済み。 ・児童集会による啓発は12月に実施予定 ・「早寝・早起き・朝ごはん」調べとして、食に対するアンケートを実施。保護者へ各学年学級通信で啓発を行った。	A	・給食委員会が中心となり、劇やスライドを使って食事の大切さを啓発した。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」調べ1週間行った。 ・食育講話を全学年に募り、優秀作品について集会で表彰を行った。 ・以上の取り組みの結果、「給食は好き嫌いせずに残さず食べた」と9割以上の子が肯定的に答えた。 ・全児童が、健康に食事は大切であると答えた。	A	・コロナ禍で家庭での食事が増えてきたことは、一緒に食卓を囲み会話もできている。お手伝いなどにも積極的に取り組ませるなど、この状況をプラスに持つて行くこともできる。 ・早寝早起き朝ご飯などの達成率が良くなっている。啓発が上手いっている。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・水曜日の定時退勤日を推進する。毎月第3水曜日は、特に意識を持たせ、全員退勤を奨励する。 ・業務の効率化のための整備を行う。	B	・毎週金曜日・第3水曜日の定時退勤日の呼びかけ、モニターによる告知を行い、意識化は図られた。働き方改革を意識していと答えた職員が8割をこえている。 ・4ヶ月の平均時間外勤務時間は35時間であった。しかし45時間を超える職員も数名みられ、引き続き取組が必要である。	B	・11月に強化月間を設け、働き方改革への意識を高めた。11月の平均時間外勤務時間は32時間、また、12月1月の超過勤務者は01になった。行事の精選なども図られ、業務の効率化に組織的に取り組むことができたと答えた教師は100％であった。しかし、校務の効率化の手立てはまだ推進していく必要がある。	A	・プログラミングやGIGAスクールなどへの対応で先生方も大変だと思う。心身の健康のために時間外勤務の減少に引き続き取り組んでほしい。 ・教科担任制の導入で長時間勤務の是正につながったのか。担任が児童と向き合う時間が少なくなり、いじめの対応など大丈夫か、しっかり考えてほしい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の充実	○支援が必要な児童への適切な支援についての全職員による共通理解と実践	○年2回、職員に対して意識調査を実施し、特別支援体制が機能していると答える職員が80％以上を目指す。	・個別的教育支援計画、指導計画を確実に作成し、前期後期で振り返りをして改善をする。 ・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、情報共有	A	・支援計画・指導計画は必要な児童全員について確実に作成している。夏季休業中に見直しをして2学期からの支援が充実するように取り組む。 ・事例をもとに全職員で児童の支援について研修を行った。 ・アンケートは1学期末と年度末に実施予定。	A	・個別の支援計画・指導計画をもとに支援が必要な児童についての支援を行った。 ・アンケートの結果、「そう思う」と回答した職員は73％で「どちらかと言えばそう思う」を合わせると100％であった。特別支援教育コーディネーターを中心に全職員で共通理解を図ったり、研修を行ったりして、児童の実態に応じた支援を行うことができた。	A	・全職員で対応できているのは素晴らしい。 ・一人ひとりの困り感に寄り添って指導いただき、適切な教材なども紹介してもらい、感謝している。 ・地域における支援体制もできないだろうか。みんなでも支えていくことが大切である。

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・学力向上については「家勉週間」が定着し、家庭との連携も図られ、学習状況調査において良い結果が出た。学習規律についての共通理解などにより、落ち着いて学習できる環境が整ってきている成果だと捉える。保護者アンケートにおいても、本校の教育活動について全項目で「概ね達成」以上の評価であり、学校関係者評価においても、高い評価を受けた。 ・本校児童の課題について全職員で共通理解を図り、課題解決の方策を考え取り組んでいった。あいさつ、表現力などの課題も対応策による取組により改善してきている。また、支援を要する児童についても特別支援コーディネーターを中心に共通理解や日頃の情報交換を活発にした。そのことが安心して学べる場づくりにつながっていったと考える。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進については、重点的な取組月間を設けたり、定時退勤日を設定したりした。意識の向上が見られ、時間外勤務時間は減ってはきている。心身の健康、子どもと向き合う時間の確保などについても更に意識し、職員が充実感を持って働ける職場づくり、業務改善などの手立てを図っていく必要がある。
----------------	---